

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/12 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 冬休みの勉強◆

一気に寒くなってきました。3年生は受験を目前に控えてラストスパートの時期に入ります。この時期の3年生の頑張りを下級生はよく見ておいてほしいものです。今回の特集は冬休みの勉強についてです。すでに、担任の先生等から、冬休みの学習計画をたてるよう指導された生徒もいるかもしれませんが、今一度、自分の計画を考えるきっかけになればと思います。まだ冬休みの勉強について、計画も何も考えていないという人は、是非、計画を立ててみましょう。「進路のしおり」の計画表を活用してみてください。

1 3年生の冬休みをどう乗り切るか

ここまできたら、自分で考えた勉強方法をやりきるのみなのですが、気をつけてほしいのは、「センター試験の過去問」を1年分しか取り組まないなどと言っている人が、毎年少し存在することです。過去問と同じ問題はでないから、意味がないなどと言っているはいけません。最初から「意味のあるもの」などないのです。すべて「意味のあるものにするかしないか」は己の手にゆだねられているのです。センター試験の数学などは、自由に解くのではなく、指定された解き方に乗ることが大切です。マークの仕方を間違える受験生が多いのも実はこの数学です。答えに「-」の符号があったり、「分数」になった時などに、マークミスが目立ちます。過去問やセンターの類似問題演習が大切なことは言うまでもありません。

まずは今年1年間の模擬試験をしっかりと復習すること。各業者でセンター試験を予想した上での模試です。その上でセンターの過去問を解いていくこと。解き方は自由です。例えば、国語の「小説」が苦手ならば、小説の大問だけを、地理の「地形図」を克服したいならば、地形図の大問だけを解き続けることでもいいのです。また、いつも試験中に時間が足りなくなる、という生徒も多いでしょう。時間制限を家でも実践することが大切です。それぞれ自分なりの勉強をしていって下さい。

2 3年生・国公立の難関大志望者は・・・

難関大を目指す人にとっては、記述力をどう維持するかがポイントになります。これは、各教科の先生に確認してみるしかありません。センター直前期は、センターの勉強をしっかりしなければ、意外と点数を落とすことになるので、油断は禁物です。しかし、100%センターのみでいいのか、ということについては、個人の特性や各教科によってさまざまですから、担当の先生と話してみるのがよいと思います。

但し、センター試験を決して侮ってはいけません。過去、難関大に挑戦し、不合格になった生徒はたくさんいます。1次・2次合わせて5点、とか十数点で涙をのんでいる生徒もいます。ギリギリで不合格になった生徒は2次試験の点数ではなく、センターの点が足りないケースがほとんどです。今から、赤本ではなく、センター対策を行うこと。繰り返します。センターで失敗すると取り返しが付きません。

3 3年生・私大に力点を置いた受験をする者

文系等で私大に力点を置いて受験計画を立てている人もいるかと思いますが。センター対策をするのは、言うまでもありませんが、私大の過去問への取り組みが、例年手ぬるいです。私大受験突破の最後のコツは、「過去問」＝「赤本」を徹底的に取り組むことにあります。自習室に過去問がありますが、さかのぼれるだけ、過去にさかのぼってください。過去3年などとケチなことを言っていたらいけません。徹底的にさかのぼって取り組むのです。そして、過去問で出た問題は、きちんと解けるようにすることです。この時期、あれもこれもではなく、しっかり過去問に取り組むことを忘れずに。なお、自習室に志望校の赤本がない場合、進路資料室に入って、3メートル直進して左下に「旺文社・大学入試問題正解」という本がありますから、それも参考にしてみてください。赤本の解答に納得できない場合も利用価値があると思います。

4 3年生・もう何から手をつけていいかわからない・・・

志望校を決めて、勉強もしなければならぬこの時期は、成績の伸び悩んでいる人にとっては、つらい時期でもあります。しんどくなってきた人は「早くセンター終わってほしい」と思い始めるものです。「あと1ヶ月やって何が変わるんだろう」などとも思いやすい時期です。予備校でもう一度基礎からやり直して再挑戦しようなどとも考えます。しかし、限られた時間さえもがんばれない人が、来年度1年間もがんばり通せるはずはありません。結果はわかりませんが、入試までの限られた時間で自分の全力をぶつけてみましょう。

この時期、何から手をつけていいかわからない人は、全力で勉強にぶつかった経験が乏しい人が多いはず。乏しい経験をそのままにしておいてはいけません。今から全力で勉強にぶつかるのです。ただし、あまりにも自分の実力とかけ離れた志望校ばかりを志望している人は、必要に応じて、センター後、現実的なことも考えなければなりません。

さて、勉強がうまくすすんでおらず、模試の判定も悪かった生徒でしたが、見事第1志望に合格した先輩の話です。「何が合格に結びついたと思う？」と確認したところ、その先輩曰く、「過去問演習をきちんとしました。勉強は不十分な所がいっぱいあって何から最後手をつけていいのやらという感じでしたが、センター試験、私大入試の過去問演習はしっかりやったという自信があります。過去問で出てきた事柄や単語は完璧に覚えました。」と言っていました。センター試験で出た文法事項が実際私大問題にもつながっていることを3年の12月・1月になってやっとわかったようでした。

私大重点志望者が私大の過去問に取り組むことの重要性は、前述した通りです。国公立大志望者には、国公立大志願者のすべきことがあります。自分のすべきことをきちんとやりきりましょう。

担任の先生やその他の教員を頼ってみるのも行き詰まった人にはおすすめです。

5 3年生・悔いのないように頑張れ！

3年生の皆さんは目の前に立ちふさがっている現実に必死に立ち向かい、その壁を突破しようとしています。毎年、3年生を見ているのですが、その姿はしっかりと今の3年生にも受け継がれています。自分なんてどーせ、って決して思わないでください。今の3年生は本当によく闘っています。プレッシャーに押しつぶされそうになりながらも一生懸命前を向こうとしています。努力していない子はいません。もしいたら勇気を皆からもらってください。大丈夫、湖陵生なんですから。

センター試験は後悔のないように。その意味は試験が終わった後にはではなく、始まる前に感じてください。つまり、冬休みは悔いが残らないように、自分が出せるあらゆる「力」を

出し切ることです。睡眠時間を削れ！とは言っていませんよ。「与えられた時間の中でベストを尽くす」んです。与えられた時間は皆同じく平等です。この同じ「時」をどう有効に活用するか。それを自分なりに活用してください。自分として正しいと考えた方法を最後まで信じてやり抜くこと。**志は高く、易きに流れるな！！**

私が何気なく気になったセンター試験のカンニング行為や追試・再試についてまとめてみました。参考までに。

この春のセンター試験のカンニング行為は？

- ・リスニング開始前に問題冊子を開き、ICプレイヤーを装着して操作（1人）
- ・数学Iにおいて分度器を使用（1人）
- ・試験終了後にマークシートを修正（2人）

一昨年度は

- ・電卓の使用（6人）
- ・定規の使用（2人）
- ・試験終了後にマークシートを修正（2人）
- ・問題冊子に隠しながらスマホを使用（1人）
- ・受験票を机の上に置きなさい、と言う試験監督の指示に従わなかった（1人）
いずれも全科目が無効となっています。

センター試験の追試験は？

この春のセンター試験出願は58万人。うち、試験当日に病気やケガなどで当日受けられなかった、あるいは受けている途中で受けられなくなって追試験を受けた受験生は414人。

また、ICプレイヤーの誤作動や監督者による試験時間の誤指示などで実施される再試験を受けた受験生は36人。

6 1・2年生、課題テストって重要性が低い？

始業日に早速課題テストがあります。春・夏・冬休みと長期休業の後に必ずある課題テスト、このテストに向けてしっかりと取り組もうとしているとは思いますが、最近、どうもこの課題テストを軽視しているような気がしてなりません。改めてこのテストの意義を一人一人考えてもらいたいと思います。

湖陵生にとって学校で受験するテストは模擬試験、4回の定期考査、そして3回の課題テストです。学力＝成績評定に直結するのは定期考査、学力＝大学進学に必要な実力に直結するのは模擬試験となります。では課題テストは何のためにあるのでしょうか。長期休業では各教科から少なくはない宿題・課題が出されます。その宿題がしっかりと身につけられたかどうかを図るのが課題テスト、これは誰にでも分かることでしょう。

ではその結果が自分の成績（評定平均）にどれくらい反映されているのか、しっかりと理解できている生徒は何人いますか？1・2年生の教科担任に聞いてみました。

国語・・・定期考査70点、平常点10点、課題テスト20点。

数学・・・定期考査とほぼ同じ扱いで評価。

英語・・・定期考査50%、課題テスト20%前後、単語テストなど平常点が30%前後年によって、または学年によって反映のされ方が違いますが、現在の1・2年生はこのように評価されています。正確なことは教科担任に確認してください。

となると、例えば国語で定期考査が平均点ぐらいでも課題テストがしっかりと取れていれば成績が1ランク上がるのはフツウにありえること、だとは思いませんか！数学はそれこそ苦手な生徒にとって千載一遇のチャンス！！！！

模試・定期・課題テストはもちろん勉強すればするほど点数は上がります。その中でも一番上がりやすいのが課題テストであること、言わずもがなですね。皆さんに課された宿題から全て出題されるんです。取ろうとしたらそれこそナンボでも取れるのは自明の理。しかも成績にしっかりと反映される。例え定期でたまたま体調不良等で点数が下がったとしても課題テストはしっかりと取り組むことができたから、とはなりませんか。また、勉強して覚えた知識は大学受験にも大きく貢献してくれるはずです。

チャッチャッと課題を消化しただけで課題テストはテキストに、では何のメリットもなく、むしろデメリットのオンパレード。さあ、改めて課題テストの意義を理解し、心から納得した上で取り組んでください。

8 1・2年生 冬期講習の活用

冬期講習が、冬休みの最初に置かれている理由は、その講習を元手に冬休みに飛躍してほしいからです。講習の役割にはいろいろありますが、1つに、「時間内にできること」「できること」「できないこと」「知らないこと」に仕分けることです。講習を受けて「仕分けた」ことを、その日のうちや、残りの冬休みを使って復習したりするのが大切です。仕分けるつもりで参加しなければ、今の自分に何が身につについていて、何が身につについていないかもわからずじまいです。

また、冬期講習は、70分の講習を3コマ設定しています。これは、70分間継続して勉強する習慣作りのためでもあります。実際の入試は、一番短い科目でも60分間です。実はこの試験時間を集中した状態が保てない受験生が多くなっていると感じるのです。**原因の一つは、勉強時間が「こまぎれ」だからです。**少しの時間も大切にしようとする心構えは立派ですが、「こまぎれ」の勉強だけでは不十分です。そこで、講習期間中は、自分の学習も70分集中して取り組む機会をつくってみることを勧めます。いつもなら、15分くらい勉強して少し休憩して、などのように勉強している人も、最低でも70分間連続して取り組んでみるのです。スマートフォンなどを使いたくなくても、勉強を続けるのです。合計の勉強時間も大切ですが、冬休みだからこそ、日頃「こまぎれ」勉強の人も「連続した」勉強をしやすいのではないのでしょうか。

9 長い休みだからこそ、深める楽しさを！

湖陵生のみなさんは、大学進学を目指している人が多いと思います。大学は、自分で追い求めていき、自分で深めていく場所です。決められた事柄を覚える学習が大切なのは言うまでもありませんが、興味をもった分野の本を読んだりして、すこし自分で、「深い所に入っていく」のも悪くありません。若いのですから、述べてきたような学習、部活動の他に、今述べた、興味ある分野に深入りする時間と体力はありますよ。本を読んだりするのも楽しいものです。

部活動の時間、家族の手伝いをする時間、自分の休憩時間なども大切にしながら、少し自分の時間を自分で考えて使ってみてはどうでしょうか？よい冬休みを。